

当院ではリラクッションを診察中に使用したり、ワンちゃんにお試し体験をしていただいています。

高齢犬や神経疾患・関節疾患を抱えている犬たちはじっと同じ体勢を維持することが難しく、皮下補液をするときや褥瘡の治療をする時に実際にリラクッションに乗って治療をすることもあります。

体勢が安定して私たちも治療を円滑に実施でき、何よりワンちゃん自身がリラックスして治療を受けることができます。皮下補液しながらウトウトしてしまうワンちゃんもいるくらいです。



数年前に「リラクッション試乗会」をハイシニア犬たちと実施した時も、リラクッションに乗ってうっとり寝てしまうワンちゃんもいました。

犬は四つ足動物のため、四つん這いの体勢でいることが自然な状態で、四本の足が下に向いた姿勢でいることで内臓の位置なども整います。

その状態を保つことで体全体も整い、さらに自身の体重を自分で支えなくて良いため、関節や筋肉に負担がかからず楽に四つん這い状態を維持でき、うっとりしているのだと考えられます。

自宅で食事の介助が必要になったワンちゃんにもサイズが合えば実際にリラクッションを使いながら家でのお世話のアドバイスをしています。

ワンちゃんがリラクッションに体を委ねることで姿勢を維持するために体力を使わず食べることができ、関節に体重がかからないことで体の痛みを軽減し、食事時間を短縮することや食事量増加につながります。

またリラクッションの両サイドの形が体を支え、両手を使って食事の介助ができるため無理な体勢でワンちゃんを支える時間も減り、飼い主さん自身の体の負担も軽減してくれます。



褥瘡ができてしまったりそのリスクのあるワンちゃんにも使用をお勧めしています。

四つん這いの体勢を維持する時間を増やすことで血流を改善し褥瘡防止になり、褥瘡ができてしまった場合はリラクッションを使うことで自宅での治療（消毒やドレッシング材の交換）が容易になるため日々の治療に要する時間も短縮でき、治癒が早まり治療期間の短縮につながります。

食事の介助や褥瘡の治療を行うとフードをこぼしたり消毒液がついたりすることがよくありますが、洗濯可能なカバーを使うことで清潔に保つこともできます。

ハイシニアに差し掛かると、ワンちゃんの背中がどんどん丸くなったり股関節の可動域が狭くなったりしてリラクッションに跨げなくなることがあります。

そのような場合は、前肢は広げてリラクッションに跨がせ下半身はリラクッションの上に横向きに寝てもらうなど、状態に合わせて使い方を一緒に考えています。ビーズクッションなので体に合わせてフィットし体重を分散してくれるので、どのように使うと気持ちよく眠れるかをご家族と一緒に試行錯誤しています。

以前、リラクッションを使用していた柴犬の飼い主さんから、自宅で使用しているが病院で試乗した時と比べて居心地が悪そうだと相談されて確認したところ、横向きに使用していたといったケースもあり、向きを間違えやすくビーズクッションで変形しやすいためお話をよく聞いて使い方の確認も行うようにしています。

愛犬が気持ちよさそうに寝ている姿や上手に食事をとれる姿は飼い主さんにとって何よりも嬉しいことだと感じますし、ワンちゃんにとっても気持ちよく寝られることは QOL の向上にも繋がります。

リラクッションを適切な時期に、上手に使って犬も人も楽に楽しく生活できることを願って、必要な方にお勧めしています。

こうめ動物病院 院長 澤柳 千